



『地域の実情を踏まえた体験活動事業』実施報告書

1、概要

本所施設に隣接する荒代海岸でのマリンウォッチング、ビーチコーミング、漂着物を活用したクラフト、ナイトマリンハイク等、目的に合わせた様々なプログラム構成による活動を行った。

- 協力 江田島市教育委員会 大柿自然環境体験学習交流館「さとうみ科学館」 江田島市校長会（ETAJIMA 学びのサークル）
広島大学 EPO ちゅうごく 日本自然保護協会 広島 SDGs コンソーシアム事務局
- 期日 海のふしぎ発見隊：令和4年8月／10月／11月（年3回の連続事業）
ETAJIMA 学びのサークル：令和4年8月10日（水）／SDGs オンラインセミナー：令和4年11月12日（土）
実行委員会：第1回令和4年8月30日（火） 第2回令和4年12月13日（火）
- 参加人数 教育事業22名／指導者養成研修41名／実行委員会各4名／その他の活動10名

2、活動内容

活動	内容
海のふしぎ発見隊	マリンウォッチング、ビーチコーミング、ビーチクラフト、ナイトマリンハイク、体験学習まとめ報告会
実行委員会	研修支援プログラム「未来の海☆夢計画」視察・協議
指導者養成研修(実践)	事前相談・事前体験／「未来の海☆夢計画」の体験活動(野外活動での実践)
SDGs オンラインセミナー	国立江田島青少年交流の家での「地域の実情を踏まえた体験活動事業」取組紹介
海洋型4施設合同研修	各施設の取組紹介、来年度へ向けての活動方針の確認、オンライン会議の実施

3、参加者の声



【「海」について不思議に思うこと】
・「水質が良い」とはどういうことか。
・魚からみたら、どんな海が一番きれいか。
・プランクトンは何を食べているのか。

【未来の海へ】
・青く透き通って魚がくらしやすい海がいい。
・自分たちが入りたいと思う海がいい。
・人がたくさんいて、楽しかったと思える海がいい。

【活動して気づいたこと】
・マリンウォッチングでは、生きものの形、色（透明な生物もいる）、特徴に着目して発表しました。
・ビーチコーミングでは、漂着物を収集して分別するとき、自然のもの、植物・生物、加工している物に着目して分けました。
・新しいふしぎを見つけました。

【指導者から】
・（海岸で）ゴミが予想以上にあったことに（児童が）驚いていた。また、なぜ、こんなにゴミが流れ着いたのか真剣に考えていた。教室で考える以上に実際の海で活発に環境問題についてし合うことができた。

【実行委員会 意見要旨】
・目的に合わせた活動を考え、プログラムを構成していくことが大切である。
・専門性よりも、どのように参加者と考え、解決する方法を学ぶかが重要である。
・活動の意味とねらいを明確にし、内容を焦点化することにより、体験活動の意味が深化する。
・SDGs-No.14だけでなく、様々な視点で活動できることをアナウンスした方がよい。